

愛ひとすじ...



演奏(ピアノ)ヴィルヘルム・ケンプ  
(ピアノ)イーボ・ボゴレリッチ  
(バイオリン)ギドン・クレメール  
歌手(バリトン)ディートリヒ・フィッシャー・ディスカウ  
指揮ヴォルフガング・サヴァリッシュ

クララ・シューマン物語

# 哀愁のトロイメライ

Fruhlings Sinfonie

ナスターシャ・キンスキー ● ヘルベルト・グリュネマイヤー ● ロルフ・ホッペ ● 監督 ベーター・シャモニ ● 脚本 ベーター・シャモニ、ハンス・A・インリッヒ

● 撮影 ゲラルド・ヴァンデンベルグ ● 演奏 スターツカペレ・ドレスデン・オーケストラ ● 製作 アリアンツ・フィルム・プロダクション、ベーター・シャモニ・フィルム ● 東西ドイツ合衆映画

● 提供 株式会社インターナショナルフィルム DTF

## 華麗な名曲で綴られた愛情物語

名曲「トロイメライ」「楽しき農夫」「謝肉祭」などを残し、後世になって有名になった天才音楽家ロベルト・シューマン。そのシューマンと結婚し、彼を助けながら自らもピアニストとして名を成したクララ・シューマン。2人の名は、音楽ファンならずとも広く世に知られ、その甘く激しい恋物語は語り草となって今に伝えられている。

2人が出会ったのは、シューマンが20歳、クララが11歳の時。音楽という同じ道を目指しながらお互いの愛を育みあつた。しかし、クララの父親ヴィークは、2人の愛を認めず引き離そうとする。美しいクララをめぐる展開されるヴィークとシューマンの確執。

この映画は、シューマンとクララの愛と苦悩を中心に、全編を数々の名曲で綴った愛情物語である。

## 豪華絢爛!19世紀ロマンの香り

これは決して安易な音楽映画ではない。シューマンとクララの愛の姿を通して、青春を生きる誰もが経験する様々な障害、挫折、苦悩、そして愛する喜び、勇気などを描いたラブ・ロマンスである。2人の愛の結びつきの姿は、見るものの胸を熱くするだろう。

監督のペーター・シャモニは、この映画を撮るにあたり、シューマン夫妻が残した日記、音楽理論を始め全ての文献を調べ、長い間あたため続けた企画を実現した。そして、クララをめぐるシューマンとヴィークの確執の中に、芸術家の自己主張と破滅を描き出したのである。

また実話の映画化ということで、演奏会も、街も、ファッションも豪華絢爛に19世紀当時を再現し、まさに歴史のロマンがスクリーンからあふれ出ている。

クララ・シューマン物語

# 哀愁のトロイメライ

提供/(株)大映インターナショナルフィルム

### ●スタッフ

監督・脚本……………ペーター・シャモニ  
共同脚本……………ハンス・A・ノインツィヒ  
撮影……………ゲラルド・ヴァンデンベルグ

### ●キャスト

クララ・シューマン……………ナスターシャ・キンスキー  
ロベルト・シューマン……………ヘルベルト・グリューネマイヤー  
フリードリッヒ・ヴィーク……………ロルフ・ホッペ  
フェリックス・メンデルスゾーン……………アンドレ・ヘラー  
ニコロ・パガニーニ……………ギドン・クレメール  
(西ドイツ=東ドイツ合作)



## 素晴らしい名演とそれを彩る世界一流アーティスト

シューマンに献身的愛を示すクララには、「テス」「ワン・フロム・ザ・ハート」で今や国際女優のナスターシャ・キンスキーが扮し、栄光へと育てあげられた天才女性を魅惑的に演じている。また、シューマン役のヘルベルト・グリューネマイヤーは「Uボート」の従軍記者役として記憶に新しいが、顔立ちが若い頃のシューマンに似ているばかりでなく、音楽の経験も類似しており、劇中で演奏される複雑なシューマンの曲も何なく弾きこなしている。

劇中に使われる曲は、音楽ファンならずとも馴染み深い「トロイメライ」を始め、「パピヨン」「トッカータ作品7」などのピアノ曲を中心に全47曲が散りばめられた。また、演奏にはディートリッヒ・フィッシャー=ディスカウ、ヴィルヘルム・ケンフ、ヴォルフガング・サヴァリッシュ他世界の一流アーティストが参加しているのも魅力のひとつ。

'85年新春第2弾!  
熱愛ロードショー

伊勢丹前・シネタウン

新宿ビレッジ2 03 (351) 3129